

文教常任委員会資料

令和6年9月17日

(2024年)

教育委員会事務局学校教育課

令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果について

標記の件について、次のとおり報告します。

令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果について

1 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の目的

- (1) 学習活動の実現状況及び学習環境や家庭生活の状況等の有用な情報を把握・分析することにより、個別最適な学びと協働的な学びを推進するための教員の指導力向上と授業改善に役立てる。
- (2) 1人1台端末を用いたC B T調査により、データ集約の効率化や指導の早期化を目指すとともに、平均点との比較ではなく、児童生徒が自身の「学力の伸び」や「非認知能力の変容」を継続的に把握し、実感することで学ぶ意欲の向上を図る。

2 概要

- (1) 実施日時：令和6年5月23日（木）～6月5日（水）
- (2) 実施対象学年
 - ア 小学校（4年生・5年生・6年生）
 - イ 中学校（1年生・2年生・3年生）
- (3) 問題内容及び問題数
 - ア 国語、算数・数学
英語（中学2年と3年）
 - イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

3 結果の活用

- (1) 各学校においては、調査結果から「認知能力の伸び」と「非認知能力の変容」を分析・考察するとともに、継続的に把握し、児童生徒一人一人への指導支援の改善に向けて計画的に取り組んでいく。
- (2) 城陽市教育委員会においては、調査結果を踏まえ、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、市内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を推進する。

4 結果の概要

京都府との比較から、小学校は、1教科（4年生算数）でやや上回り、2教科（5年生国語、6年生国語）でやや下回り、他の3教科は同程度となった。中学校では、1教科（1年生数学）でやや上回り、4教科（2年生国語、2年生数学、3年生数学、3年生英語）でやや下回り、他の3教科は同程度となった。また、すべての学年・教科において、その差はわずかとなっている。

下回った6教科を学力伸長の観点で見ると、5教科において京都府よりも伸び率が高く、引き続き、課題解決型の授業展開が重要である。一方、中学校2年生数学の伸び率が低調であり、個々に応じた指導を重点的に取り組む必要がある。

授業に関する質問調査からは、グループ学習を通して、思考力・判断力・表現力の育成が図られ、学びの振り返りなど達成度を確認する機会を設定する工夫が見られた。

また、携帯電話やスマートフォンの所持率、使用時間については中学生で多い傾向が見られた。

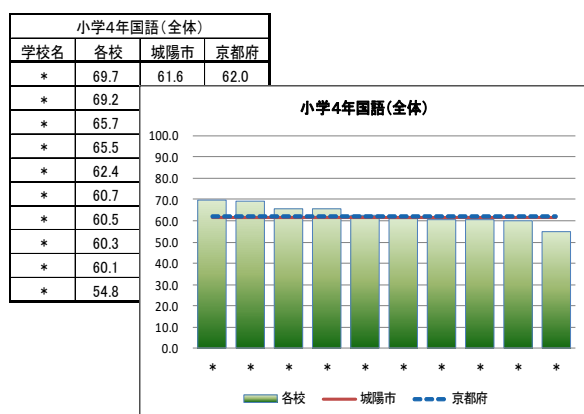
5 各教科の結果

(1) 国語／小学4年

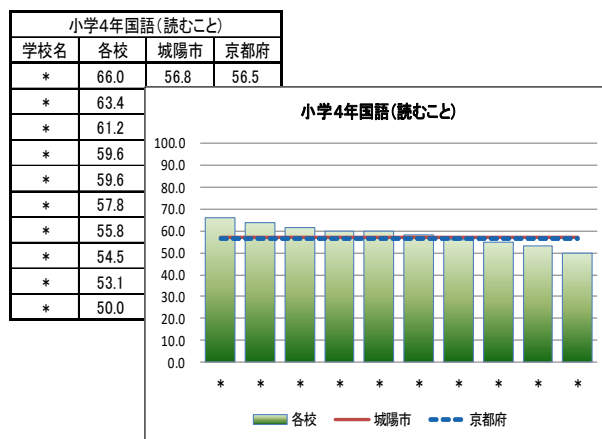
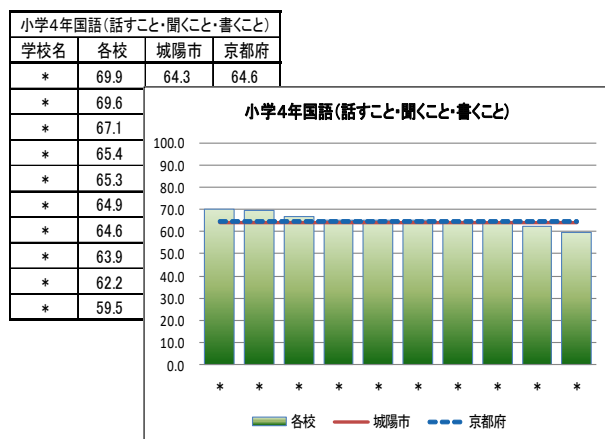
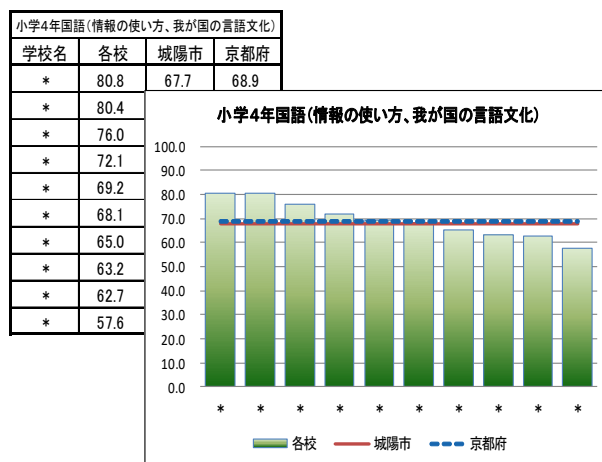
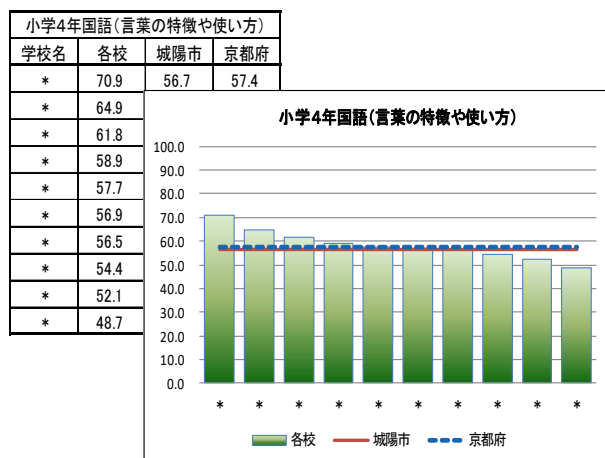
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、同程度（△0.4ポイント）となりました。「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域では、1.2ポイント下回っており、課題が見られます。
- ・情報の扱いについては、文章の中にある考え、それを支える事例について理解し、自分の表現でも活用できるような指導の工夫が大切です。我が国の言語文化においては、ことわざや慣用句を知るだけでなく、活用して表現する活動を充実させるなどの指導が必要です。

<調査の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】

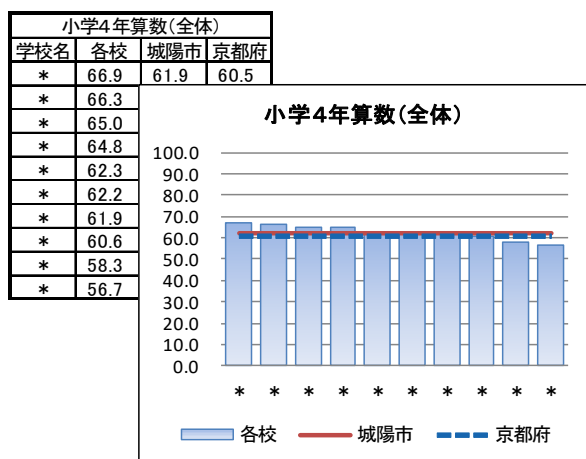


(2) 算数／小学4年

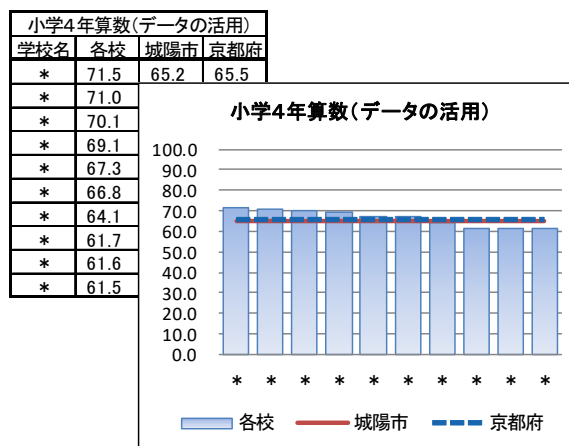
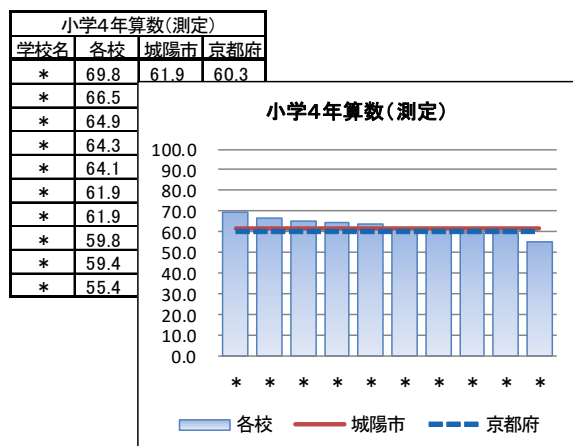
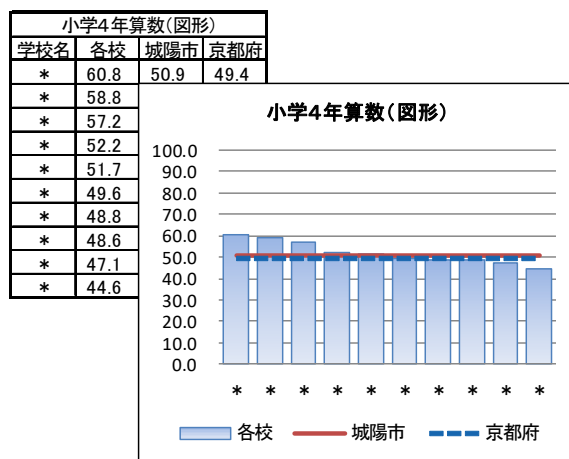
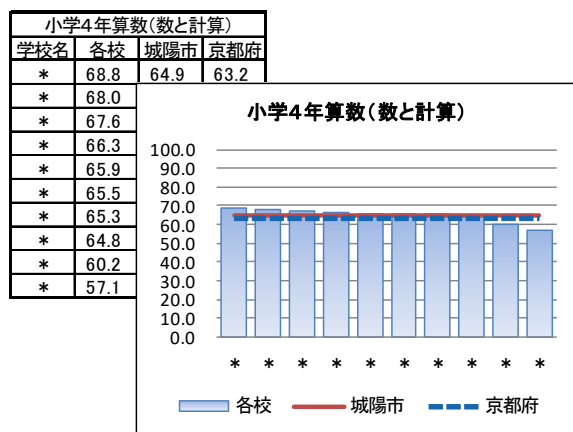
- 「総合」では、京都府の平均と比較して、1.4ポイント上回る結果となりました。「領域別の結果」では、「データの活用」以外で1.5ポイント以上上回りました。計算等の基礎基本の定着を図る取組や、数学的活動を充実させるなどの授業改善の成果であると考えられます。
- 今後についてはさらに発展的な課題に取り組ませる機会を増やし、「学び合い」などのグループ学習を充実させるなどして深い学びにつながるような指導の工夫が求められます。

<調査の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】

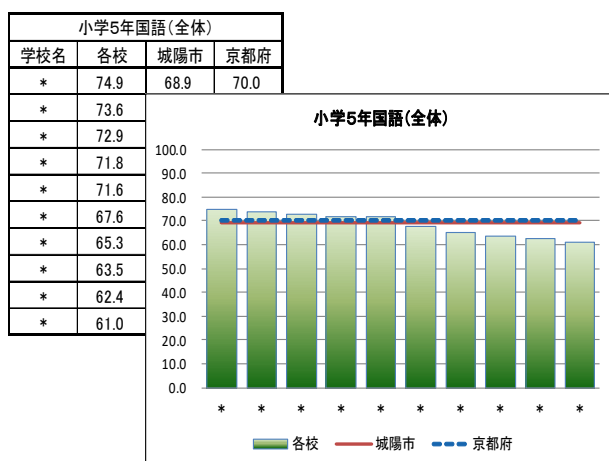


(3) 国語／小学5年

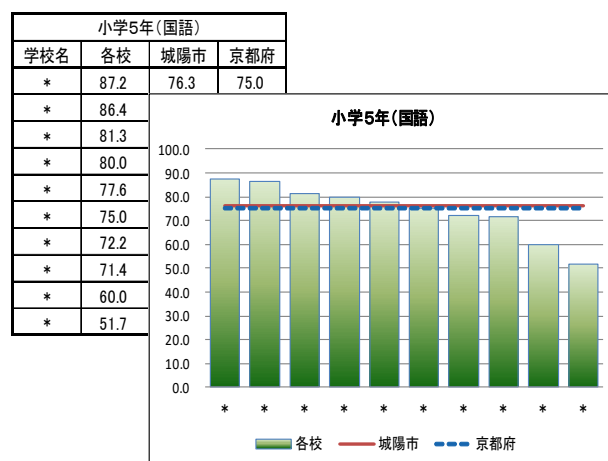
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.1ポイント下回ったものの、「学力が伸びた児童の割合」について見てみると、京都府の平均を1.3ポイント上回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」においては、「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと・書くこと」の領域で1.4ポイント下回り課題が見られました。既習した語彙や文法を作文や発表等の表現活動でも活用できるよう指導するとともに、言語活動（読む・書く・話す・聞く）を充実させながら、子どもたちが主体的に学習できるよう授業を工夫することが大切です。

<調査の状況>

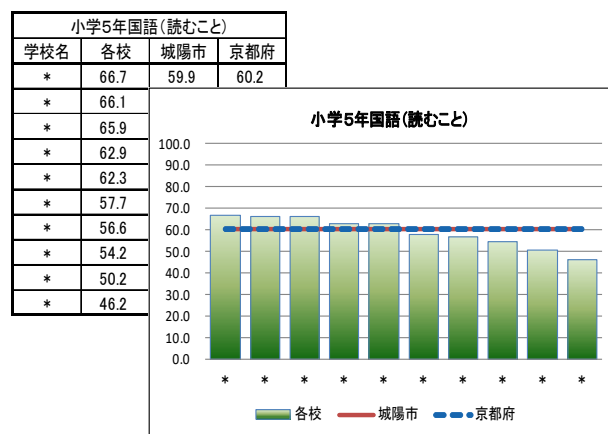
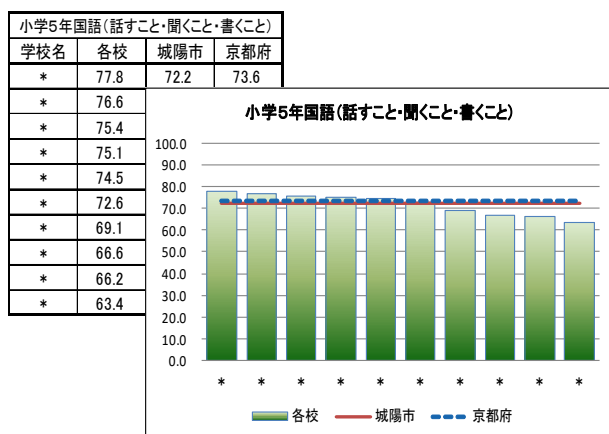
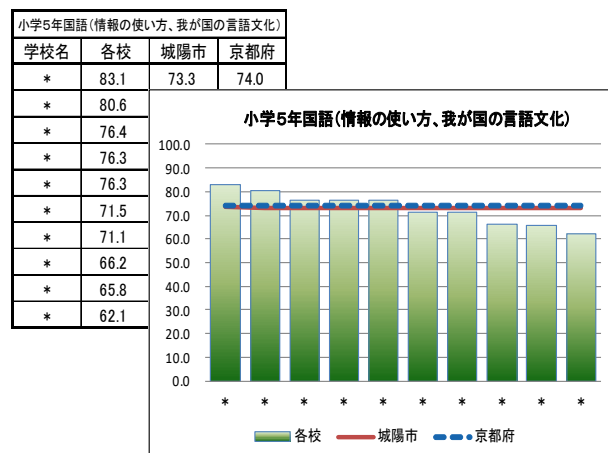
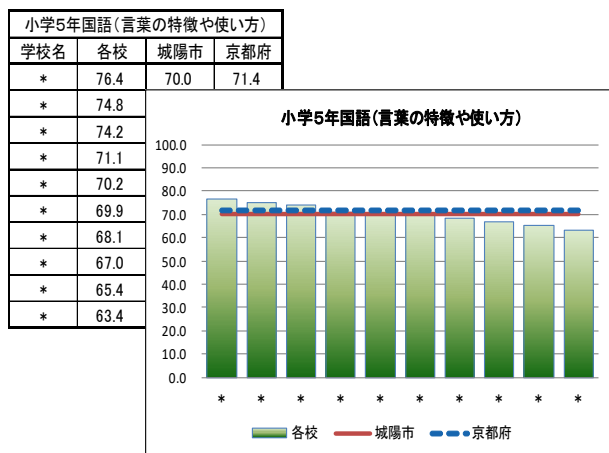
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

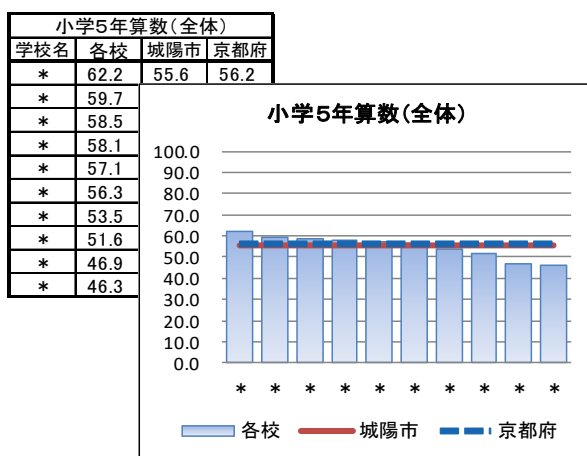


(4) 算数／小学5年

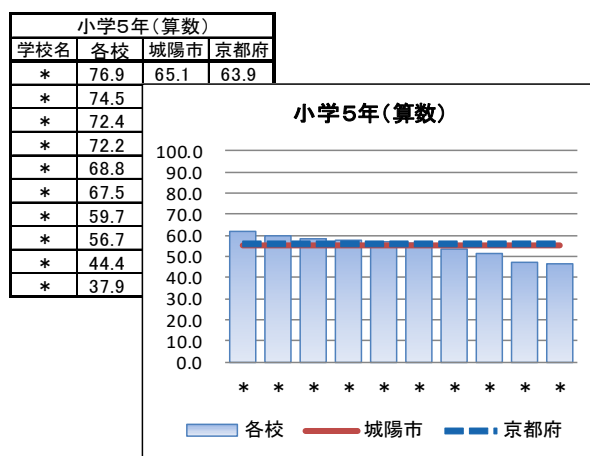
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、同程度（△0.6ポイント）となり、「学力が伸びた児童の割合」について見てみると、京都府の平均を1.2ポイント上回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」においては、京都府の平均と比較して、「変化と関係／測定」で1.1ポイント下回り課題が見られます。「数学的な見方・考え方」を働かせながら、具体的な活動を通し、比例や割合について理解するとともに、そのよさに気づき、日常生活でも生かそうとする主体的な態度の育成が求められます。

<調査の状況>

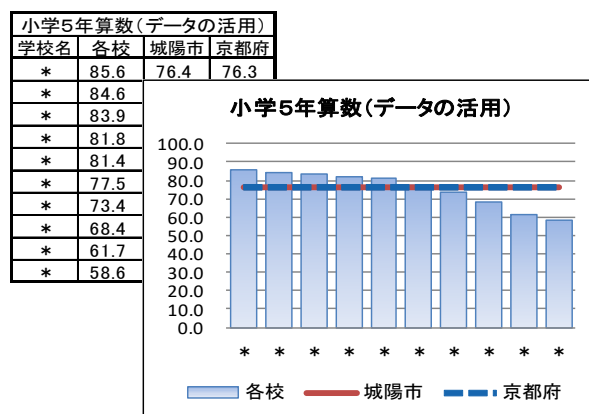
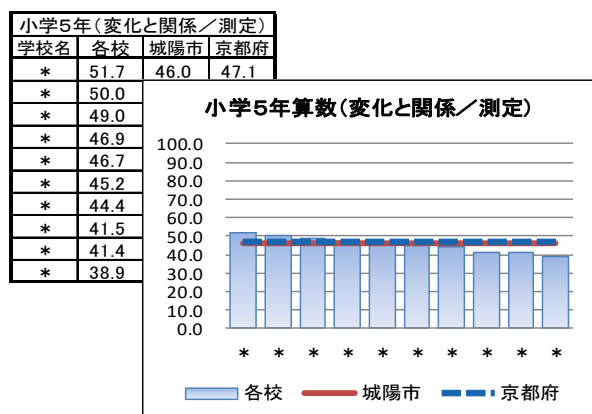
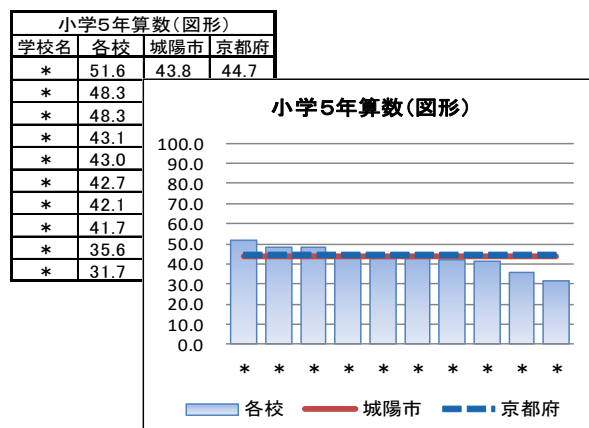
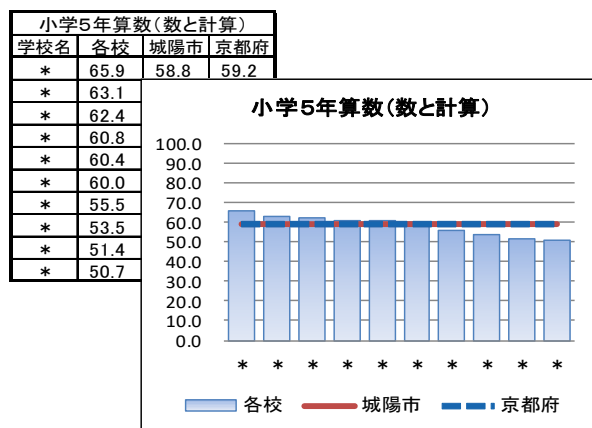
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

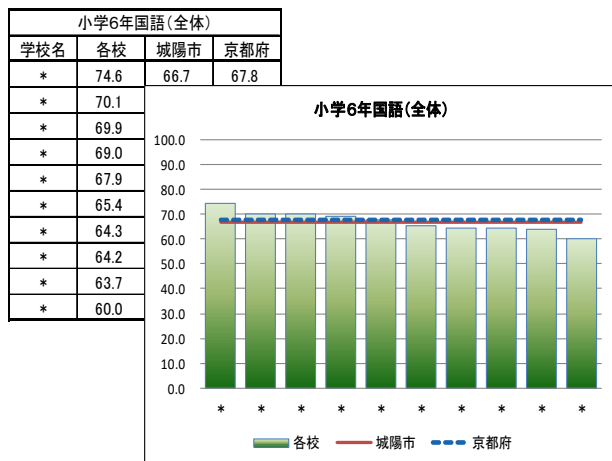


(5) 国語／小学6年

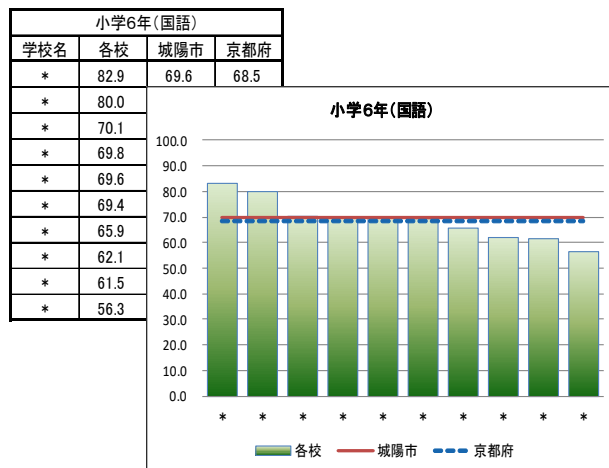
- ・「総合」では、京都府の平均と比較して、1.1ポイント下回る結果になりましたが、「学力が伸びた児童の割合」は、京都府の平均を1.1ポイント上回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」では、「言葉の特徴や使い方」において2.1ポイント京都府の平均を下回り、課題が見られます。今後も語彙や文法などの基礎基本の定着を大切にしながら、作文や発表をする際にも活用できるように指導することが大切です。

<調査の状況>

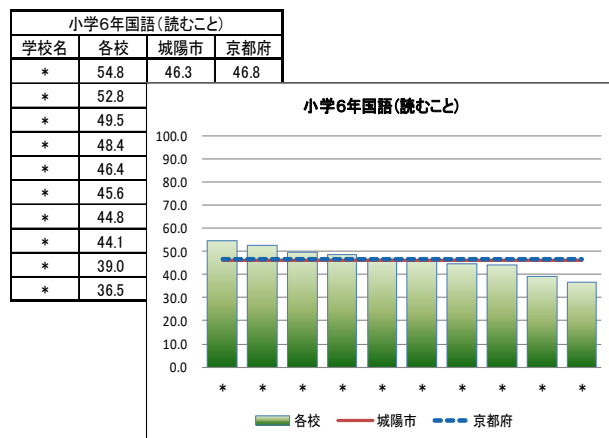
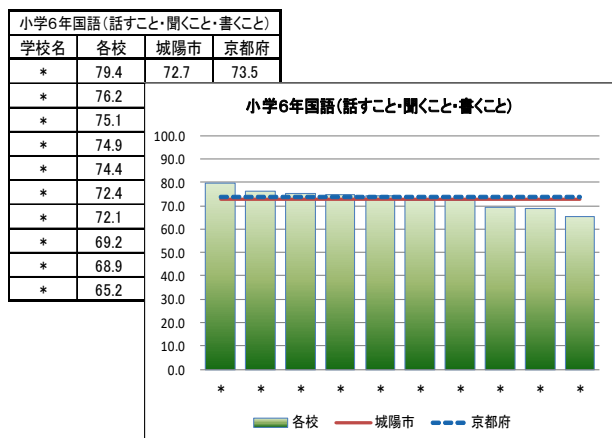
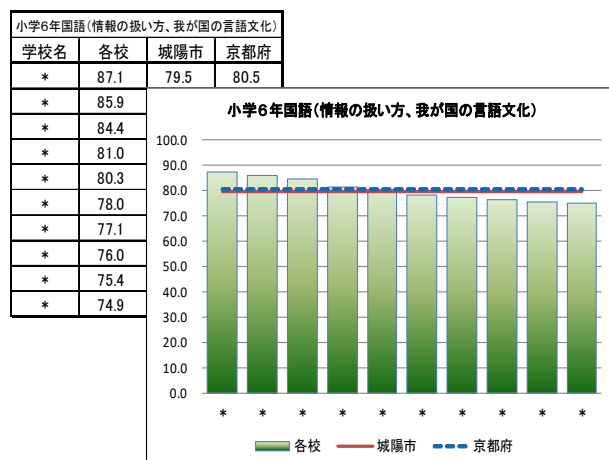
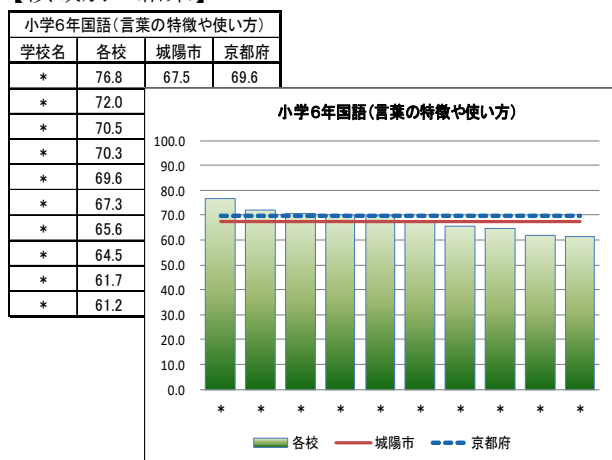
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】



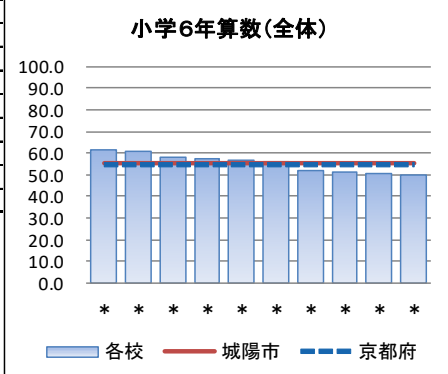
(6) 算数／小学6年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、同程度（+0.2ポイント）となり、「学力が伸びた児童の割合」は、京都府と同じ結果となりました。
- ・「領域別の結果」では、京都府の平均と比較すると、特に「数と計算」で0.8ポイント上回り、各校における計算等の基礎基本の定着に向けた取組の成果であると考えられます。今後についてはさらに発展的な課題に取り組ませる機会を増やすなどの指導の工夫が求められます。

<結果の状況>

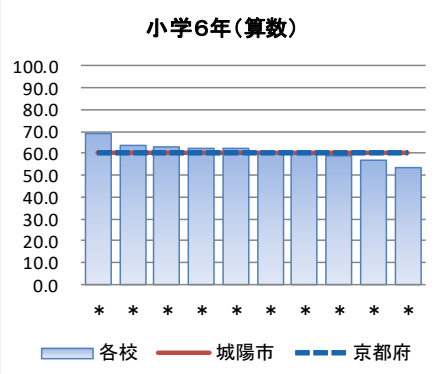
【全体の結果】

小学6年算数(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	61.3	55.0	54.8
*	60.8		
*	57.9		
*	57.2		
*	57.0		
*	56.0		
*	52.3		
*	51.3		
*	50.8		
*	49.7		



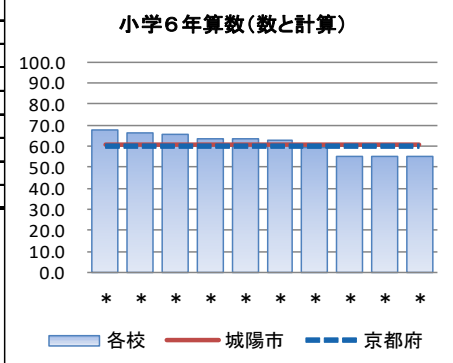
【学力が伸びた児童の割合】

小学6年(算数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	69.2	60.0	60.0
*	63.4		
*	63.3		
*	62.5		
*	62.5		
*	60.3		
*	59.8		
*	58.6		
*	57.1		
*	53.3		

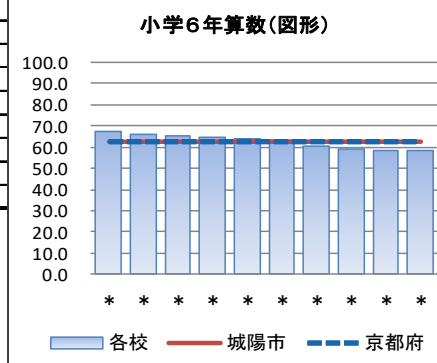


【領域別の結果】

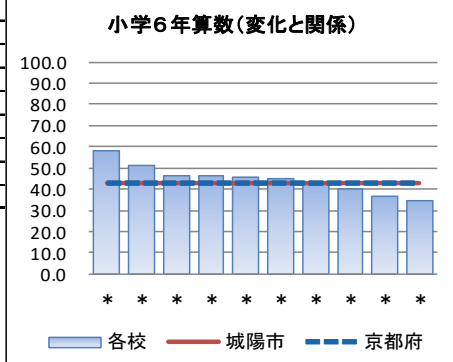
小学6年算数(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	67.7	60.9	60.1
*	66.5		
*	65.2		
*	63.4		
*	63.2		
*	62.7		
*	58.9		
*	55.2		
*	55.2		
*	55.0		



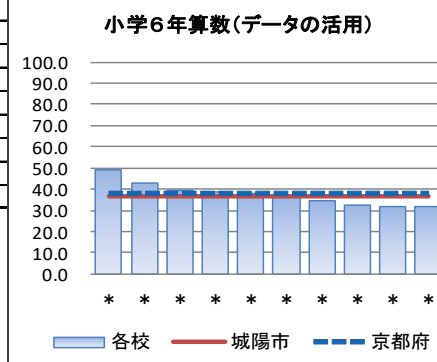
小学6年算数(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	67.6	62.4	62.2
*	66.1		
*	65.5		
*	64.5		
*	64.1		
*	63.3		
*	60.4		
*	59.1		
*	58.4		
*	58.1		



小学6年算数(変化と関係)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	58.4	42.6	42.7
*	51.0		
*	46.7		
*	46.5		
*	45.4		
*	45.0		
*	43.1		
*	40.0		
*	36.4		
*	34.6		



小学6年算数(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	49.4	36.9	38.1
*	42.9		
*	39.5		
*	38.6		
*	38.1		
*	36.7		
*	34.8		
*	32.5		
*	31.7		
*	31.5		



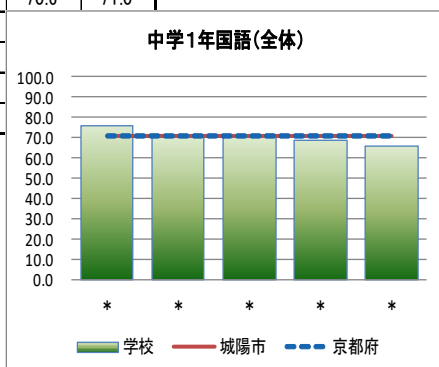
(7) 国語／中学1年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、同程度（△0.4ポイント）となり、「学力が伸びた児童の割合」においても、同程度となりました。
- ・「領域別の結果」では、京都府の平均と比較すると、「言葉の特徴や使い方」で、1.1ポイント下回っており、課題が見られます。語彙や文法などの基礎基本の定着を図る取組を強化するとともに、既習した内容を活用して、文章にしたり発表したりするなど、表現する活動を通して深い学びにつなげることが大切です。

<調査の状況>

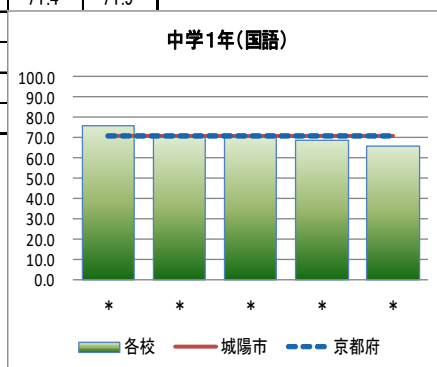
【全体の結果】

中学1年国語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	75.9	70.6	71.0
*	70.2		
*	70.2		
*	68.9		
*	65.7		



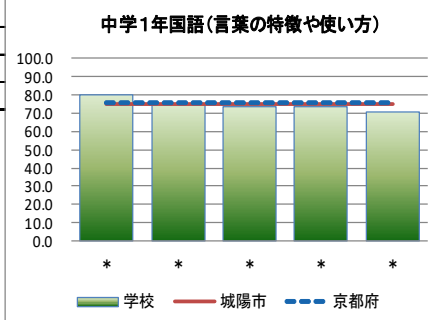
【学力が伸びた生徒の割合】

中学1年(国語)			
学校名	各校	城陽市	府全体
*	74.5	71.4	71.9
*	73.0		
*	70.8		
*	70.4		
*	69.0		

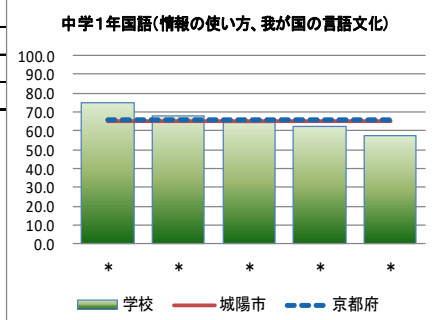


【領域別の結果】

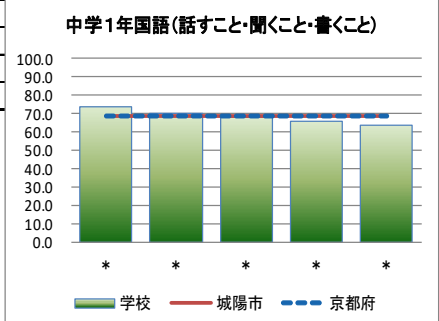
中学1年国語(言葉の特徴や使い方)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	79.9	74.9	76.0
*	74.7		
*	73.9		
*	73.6		
*	70.3		



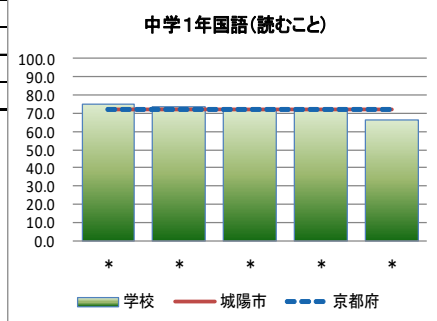
中学1年国語(情報の使い方、我が国の言語文化)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	74.8	65.1	65.8
*	67.8		
*	64.1		
*	62.2		
*	57.2		



中学1年国語(話すこと・聞くこと・書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	74.1	68.8	68.7
*	69.9		
*	67.9		
*	65.6		
*	63.5		



中学1年国語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	74.7	72.1	72.2
*	73.7		
*	72.0		
*	71.9		
*	66.3		



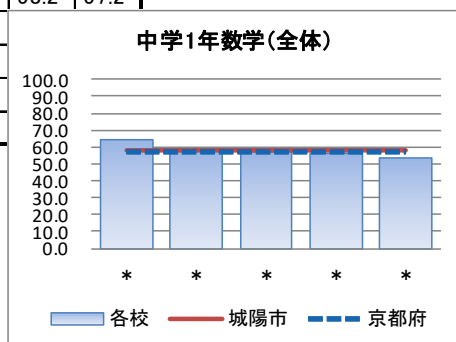
(8) 数学／中学1年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.0ポイント上回り、「学力が伸びた生徒の割合」は、同程度となりました。
- ・「領域別の結果」では、京都府の平均と比較すると、「数と計算」で2.2ポイント上回っており、基礎基本の定着が図られています。さらに学力の伸長を目指し、発展的な課題を取り入れ、「協働的な学び」によって取り組ませるなどの工夫が大切です。

<調査の状況>

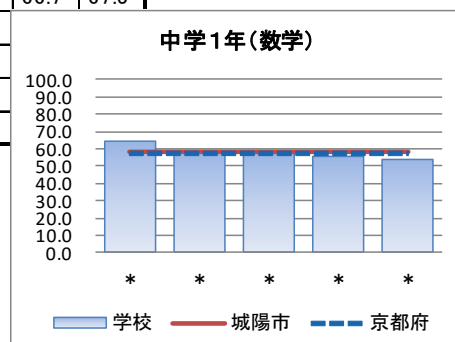
【全体の結果】

中学1年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	64.3	58.2	57.2
*	57.9		
*	57.3		
*	55.9		
*	53.6		



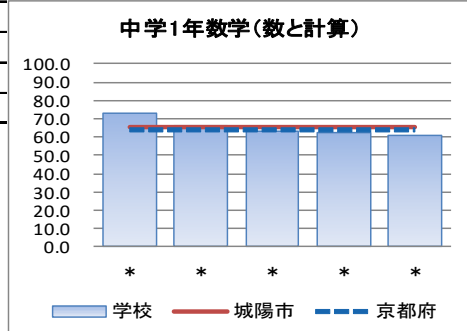
【学力が伸びた生徒の割合】

中学1年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	74.4	66.7	67.5
*	68.9		
*	65.7		
*	63.2		
*	59.6		

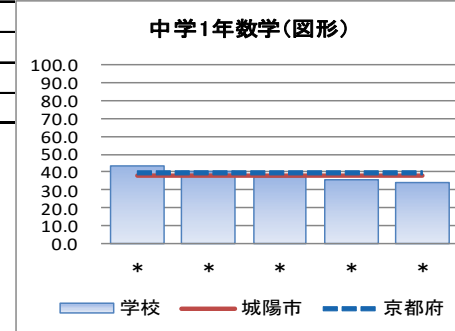


【領域別の結果】

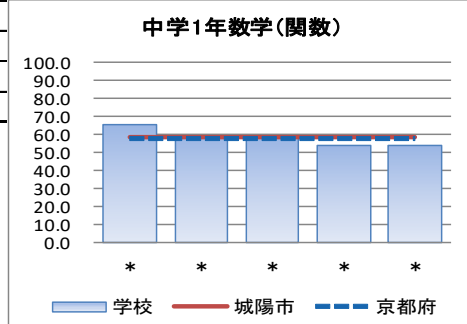
中学1年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	73.3	65.8	63.6
*	65.9		
*	62.8		
*	62.6		
*	61.2		



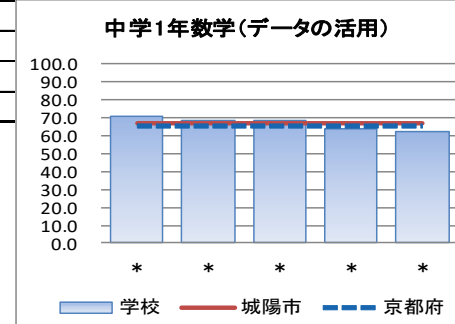
中学1年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	43.3	38.3	39.5
*	40.3		
*	37.3		
*	35.7		
*	34.3		



中学1年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	65.7	58.9	57.8
*	59.6		
*	58.7		
*	54.3		
*	53.9		



中学1年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	70.9	66.9	65.4
*	68.1		
*	67.9		
*	63.5		
*	61.9		

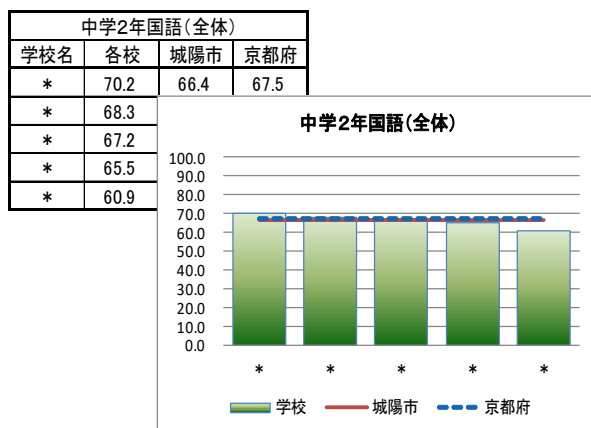


(9) 国語／中学2年

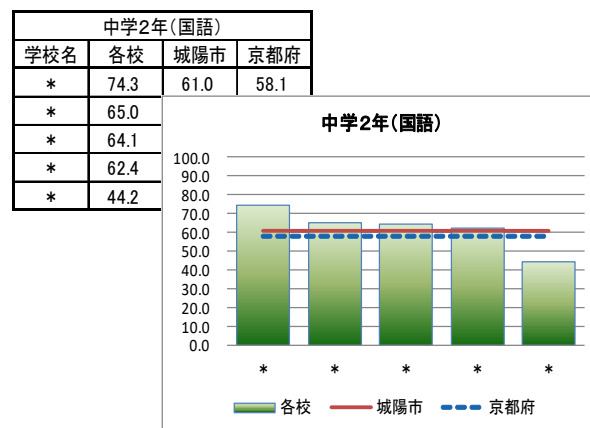
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1. 1ポイント下回ったものの、「学力が伸びた生徒の割合」においては、2. 9ポイント上回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」においては、京都府の平均と比較すると特に「読むこと」で2. 4ポイント下回り、課題が見られます。授業では、丁寧に文章を読み進め、考えた内容を伝え合い、まとめるなどの言語活動を通して、深い学びにつながる授業改善が求められます。

<調査の状況>

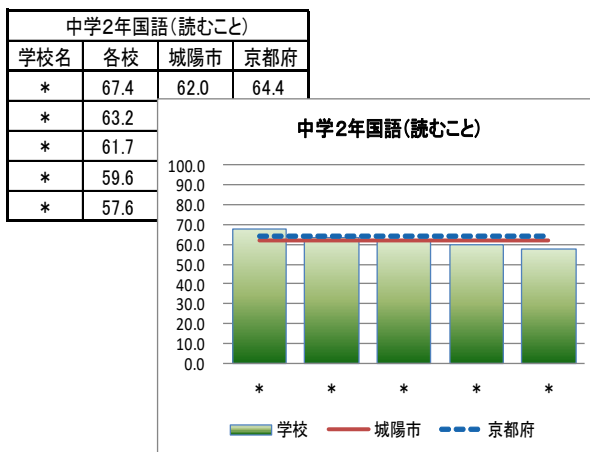
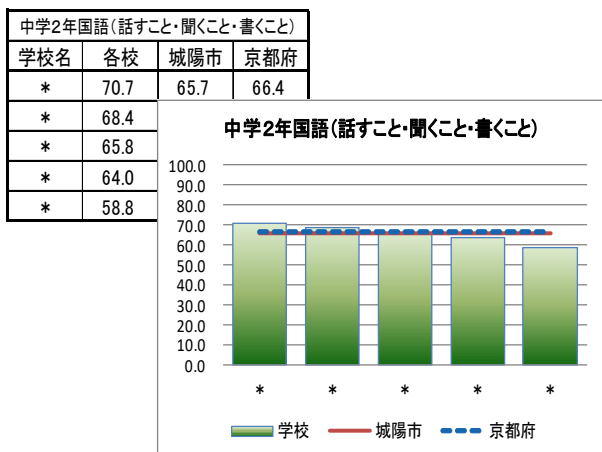
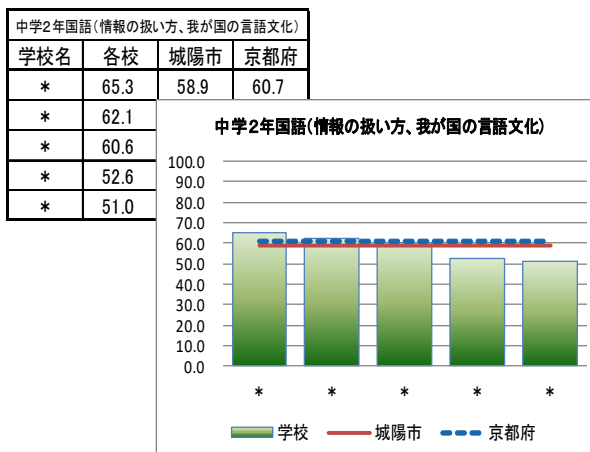
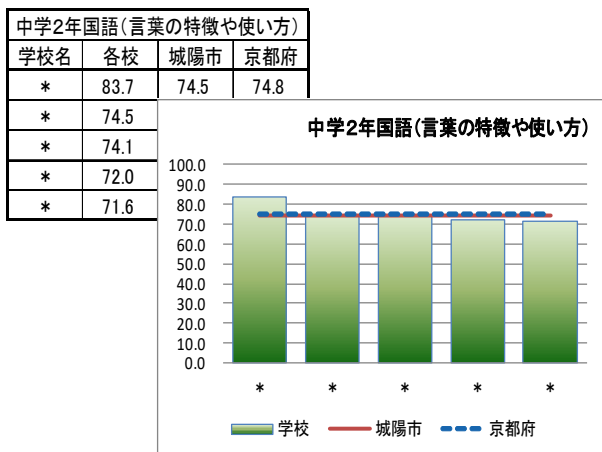
【全体の結果】



【学力が伸びた生徒の割合】



【領域別の結果】



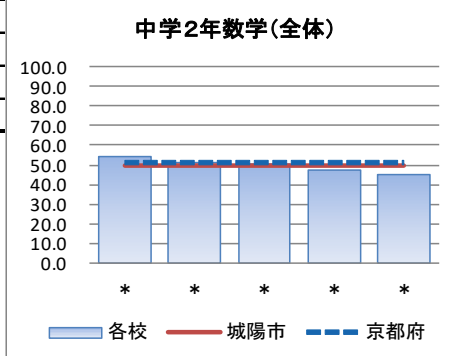
(10) 数学／中学２年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、１．７ポイント下回り、「学力が伸びた生徒の割合」については３．５ポイント下回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」では、京都府の平均と比較すると、「図形」「関数」において、それぞれ２．５ポイント、３．５ポイント下回っており課題となっています。授業においては、図形、関数ともに観察や操作から考察する力を養うために、数学的活動を充実させ、また、「協働的な学び」から深い学びにつなげる工夫が必要です。

<調査の状況>

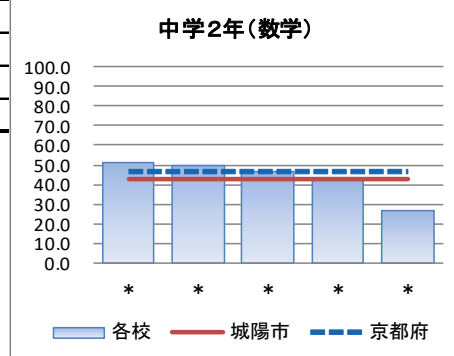
【全体の結果】

中学2年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	54.1	49.7	51.4
*	50.9		
*	50.7		
*	47.2		
*	45.1		



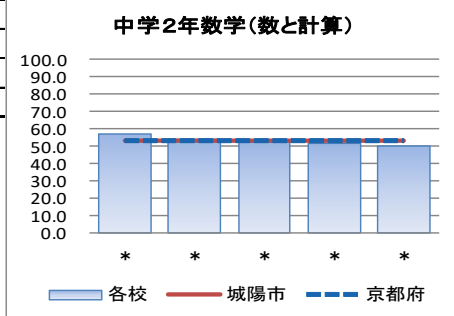
【学力が伸びた生徒の割合】

中学2年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	51.4	42.8	46.3
*	50.0		
*	46.7		
*	43.1		
*	26.4		

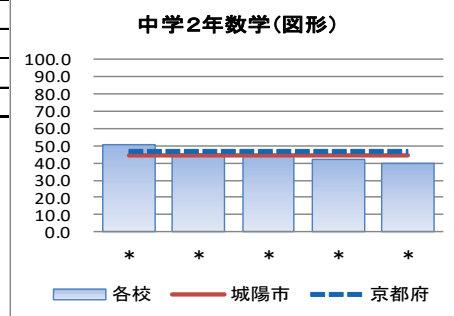


【領域別の結果】

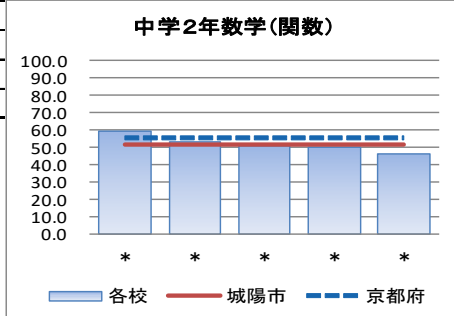
中学2年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.9	52.9	53.3
*	54.2		
*	52.3		
*	51.3		
*	49.8		



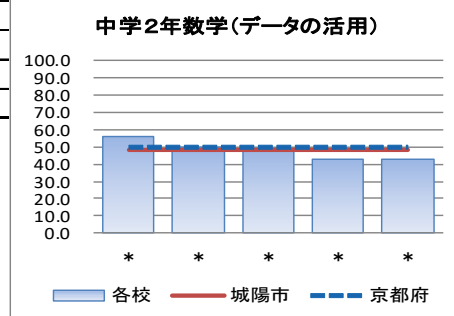
中学2年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	50.2	44.4	46.9
*	45.3		
*	44.5		
*	42.3		
*	39.6		



中学2年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	59.5	52.0	55.5
*	52.9		
*	50.8		
*	49.9		
*	46.4		



中学2年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.1	48.3	49.5
*	49.4		
*	49.3		
*	43.1		
*	43.0		



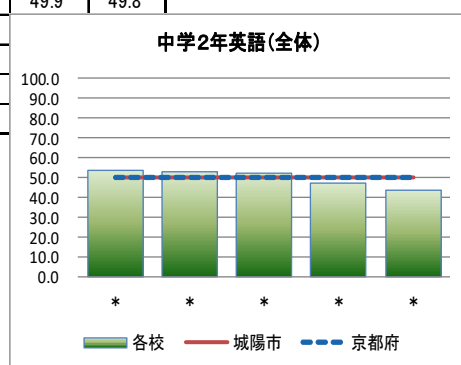
(11) 英語／中学２年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、同程度（＋０．１）ポイントとなりました。
- ・「領域別の結果」においては、京都府の平均と比較すると、特に「書くこと」で１．９ポイント上回りました。各校における授業改善や家庭学習の取組の成果であると考えられます。今後も、コミュニケーションの場を多く設定するなどして、英語に親しみを持たせるとともに、また、「聞くこと・話すこと・書くこと」の言語活動をバランス良く取り入れ、主体的に英語を用いて話したり書いたりしようとする態度が育つような授業改善が大切です。

<結果の状況>

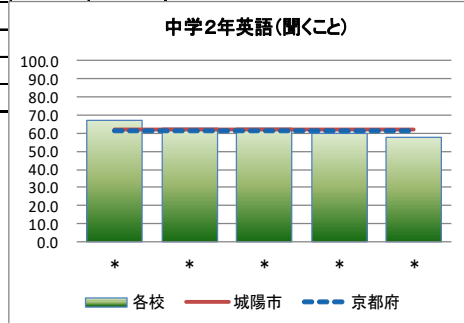
【全体の結果】

中学2年英語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	53.6	49.9	49.8
*	53.2		
*	52.3		
*	47.4		
*	43.7		

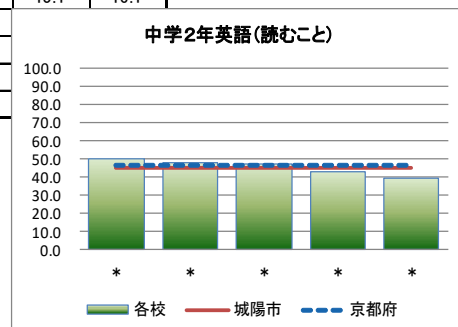


【領域別の結果】

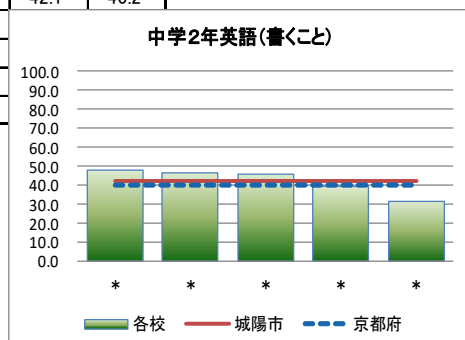
中学2年英語(聞くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	66.9	61.9	61.1
*	62.5		
*	62.4		
*	59.5		
*	57.5		



中学2年英語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	49.9	45.1	46.1
*	47.9		
*	47.2		
*	42.5		
*	39.4		



中学2年英語(書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	48.2	42.1	40.2
*	46.5		
*	46.1		
*	39.6		
*	31.4		



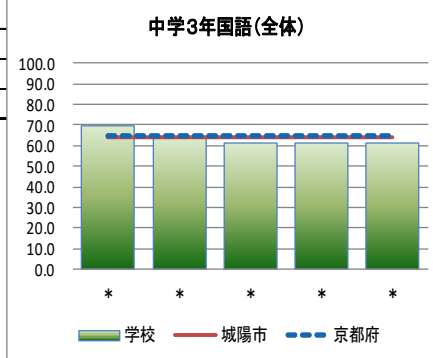
(12) 国語／中学３年

- ・「全体」では、京都府の平均と比べ、同程度（△ 0. 7 ポイント）となり、「学力が伸びた生徒の割合」では 5. 2 ポイント上回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」では、京都府の平均と比較すると、「情報の扱い方、我が国の言語文化」で 2. 5 ポイント下回り課題が見られます。文章から必要な情報を取り出して整理し、自身の考えの形成に生かしていけるような活動が大切です。

< 調査の状況 >

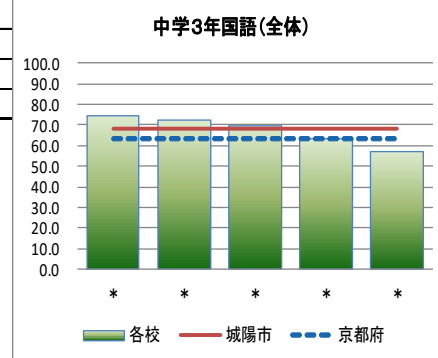
【全体の結果】

中学3年国語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	69.4	63.9	64.6
*	64.1		
*	61.3		
*	61.1		
*	61.0		



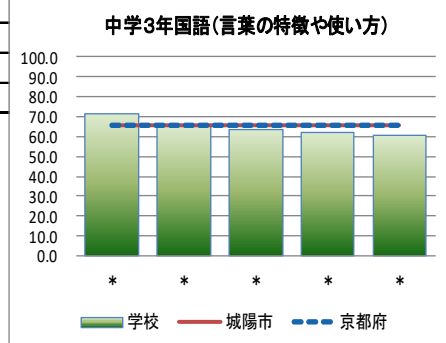
【学力が伸びた生徒の割合】

中学3年(国語)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	74.6	68.3	63.1
*	72.7		
*	69.3		
*	63.2		
*	57.1		

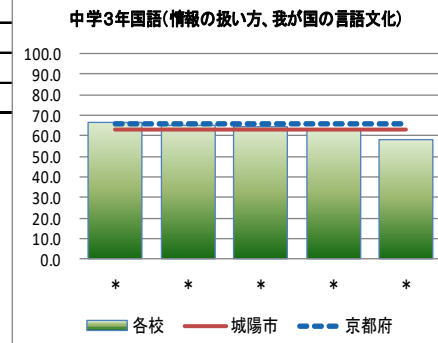


【領域別の結果】

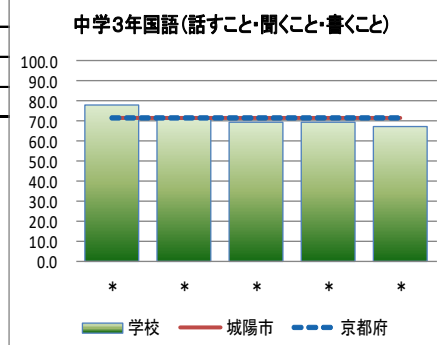
中学3年国語(言葉の特徴や使い方)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	71.6	65.4	65.7
*	65.8		
*	63.3		
*	62.4		
*	60.4		



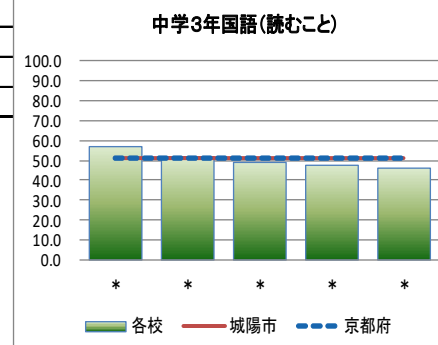
中学3年国語(情報の扱い方、我が国の言語文化)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	66.3	63.3	65.8
*	65.0		
*	64.3		
*	62.8		
*	58.2		



中学3年国語(話すこと・聞くこと・書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	78.4	71.5	71.8
*	70.7		
*	69.2		
*	69.2		
*	67.3		



中学3年国語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.5	50.8	51.3
*	51.5		
*	49.2		
*	47.7		
*	46.1		



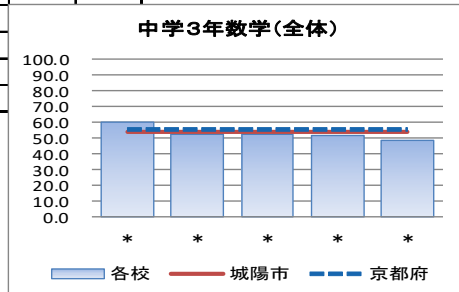
(13) 数学／中学3年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.9ポイント下回ったものの、「学力が伸びた生徒の割合」については、4.5ポイント上回る結果となりました
- ・「領域別の結果」では、京都府平均と比べると、「図形」「関数」で、それぞれ3.5ポイント、2.9ポイント下回り課題が見られます。授業においては、図形、関数ともに観察や操作から考察する力を養うために、数学的活動を充実させ、また、「協働的な学び」から深い学びにつなげる工夫が必要です。

<調査の状況>

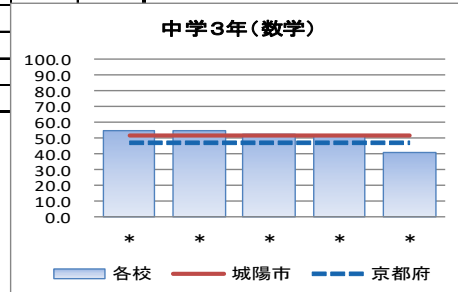
【全体の結果】

中学3年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	60.6	54.0	55.9
*	52.8		
*	52.7		
*	52.1		
*	48.5		



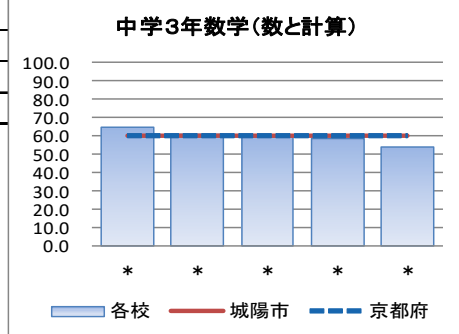
【学力が伸びた生徒の割合】

中学3年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	54.7	51.5	47.0
*	54.5		
*	52.6		
*	51.8		
*	40.8		

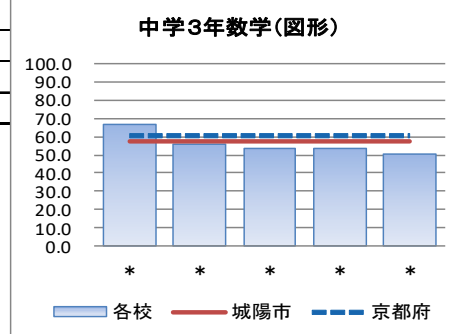


【領域別の結果】

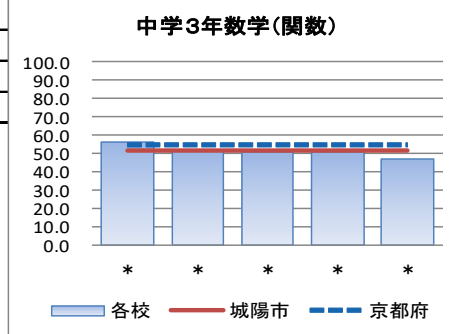
中学3年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	64.6	59.8	60.3
*	60.6		
*	59.1		
*	58.3		
*	53.8		



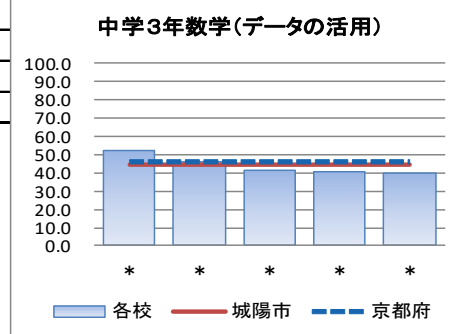
中学3年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	66.9	57.0	60.5
*	55.8		
*	53.7		
*	53.6		
*	50.3		



中学3年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.1	51.7	54.6
*	51.3		
*	50.9		
*	50.5		
*	47.0		



中学3年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	52.2	44.7	46.2
*	45.5		
*	41.6		
*	40.3		
*	39.9		

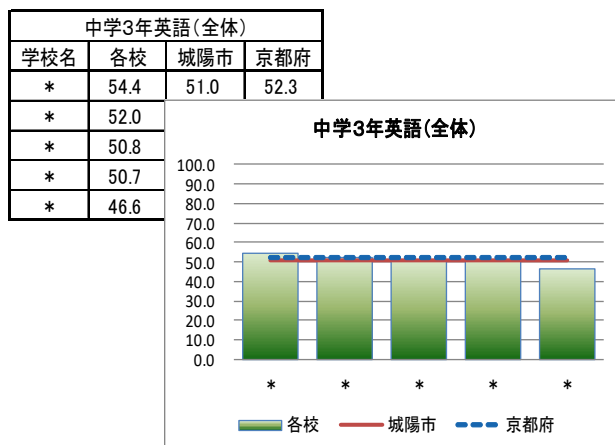


(14) 英語／中学３年

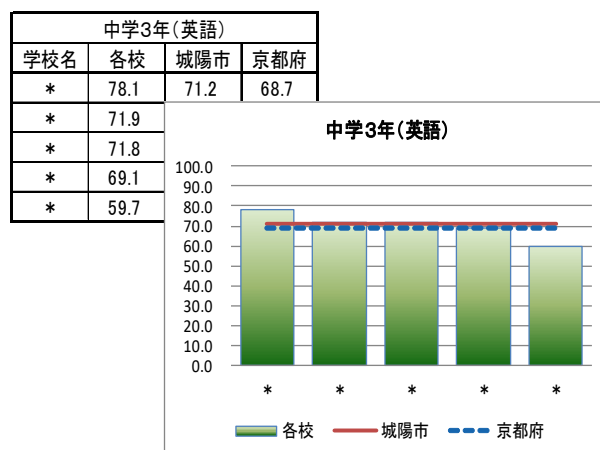
- ・「全体」では、京都府の平均と比べると、１．３ポイント下回る結果となりましたが、「学力が伸びた生徒の割合」は、２．５ポイント上回る結果となりました。
- ・「領域別の結果」では、京都府の平均と比べて、「読むこと」で２．０ポイント下回り、課題が見られます。英語による「聞くこと・読むこと・話すこと・書くこと」の言語活動をバランス良く取り入れ、実際のコミュニケーションにおいても活用できるよう指導することが求められます。

<調査の状況>

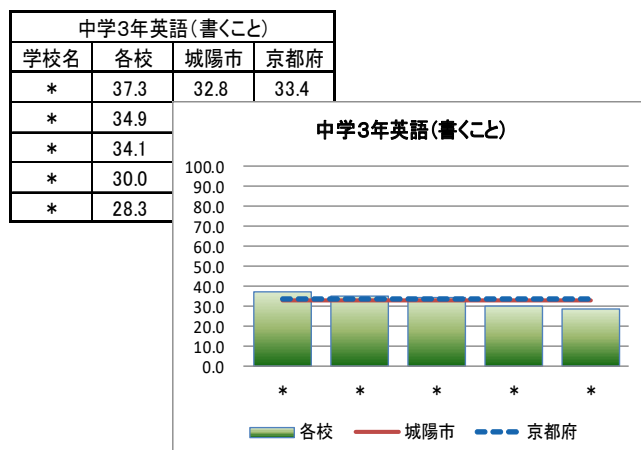
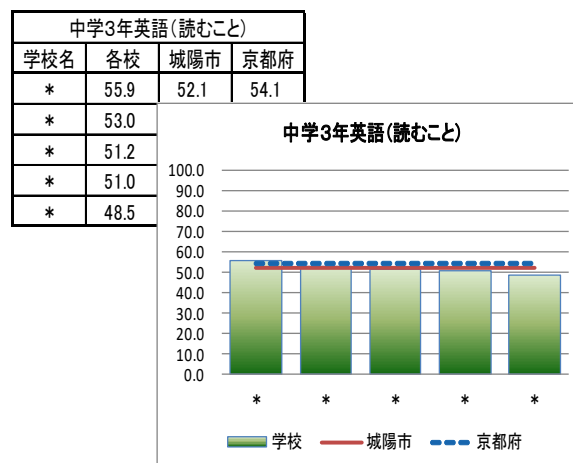
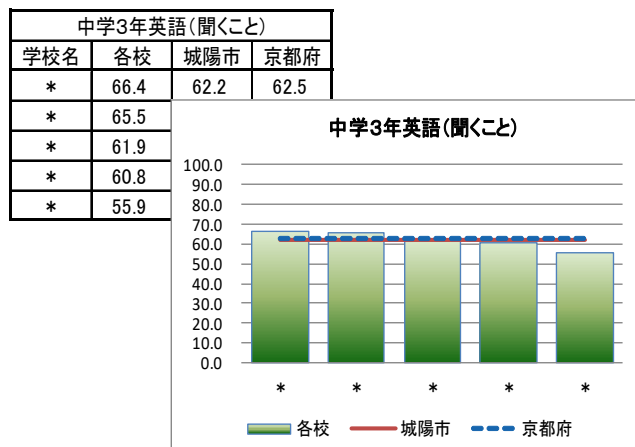
【全体の結果】



【学力が伸びた生徒の割合】

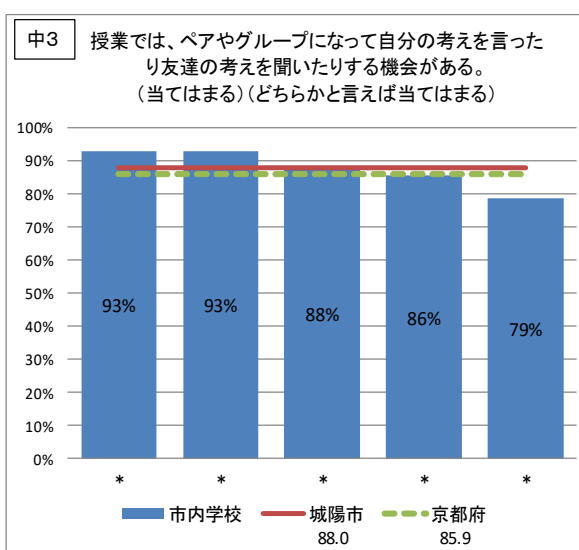
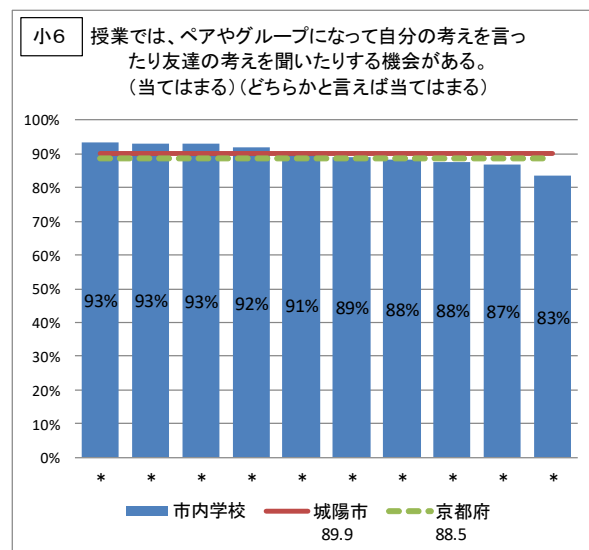
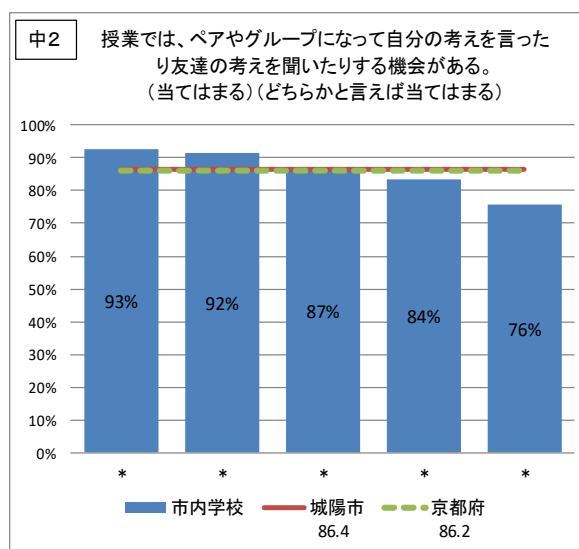
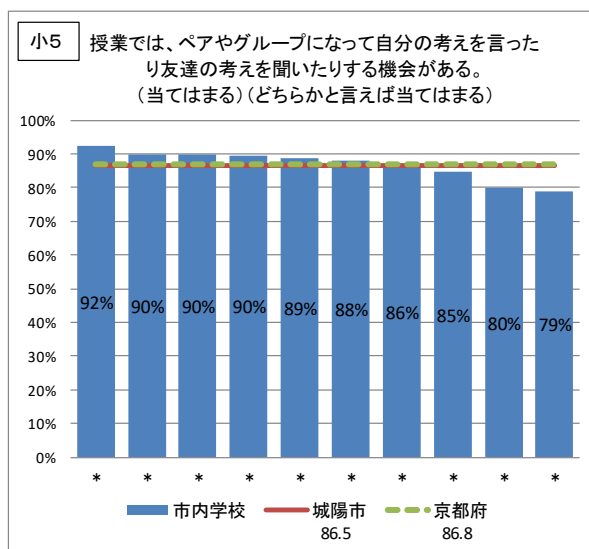
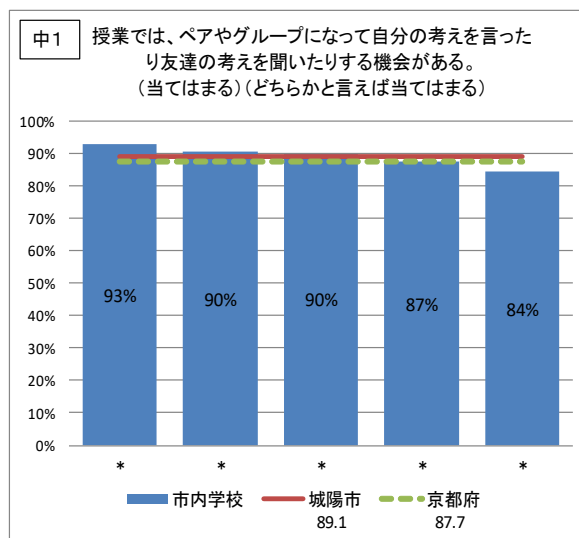
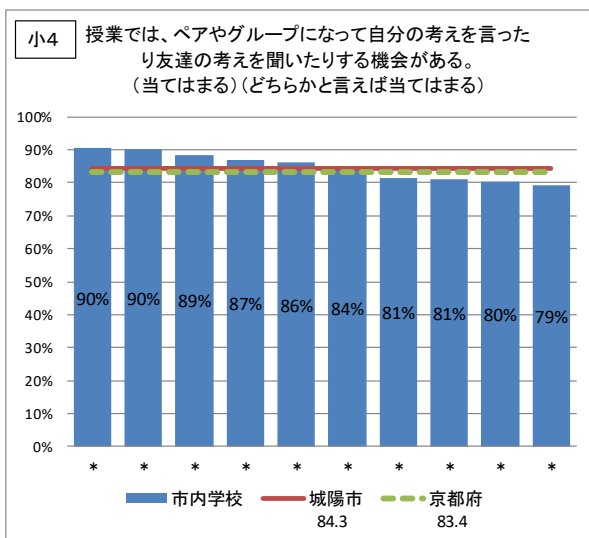


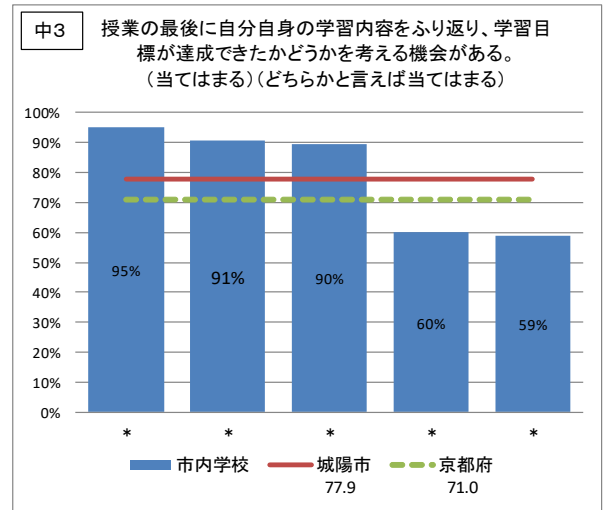
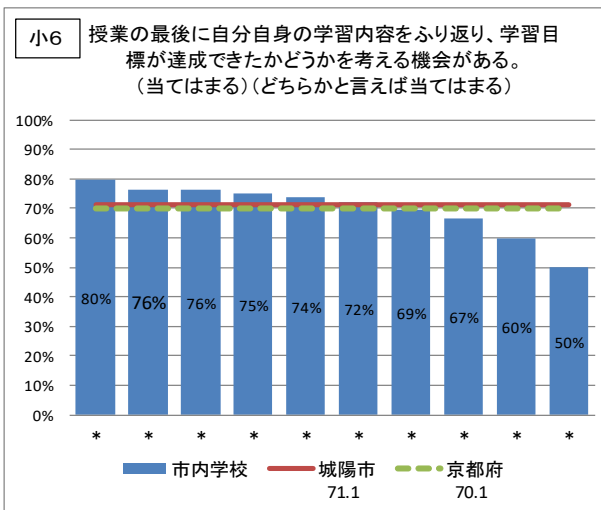
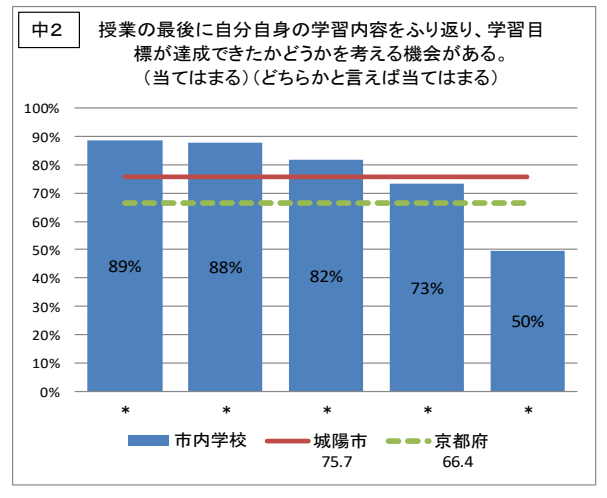
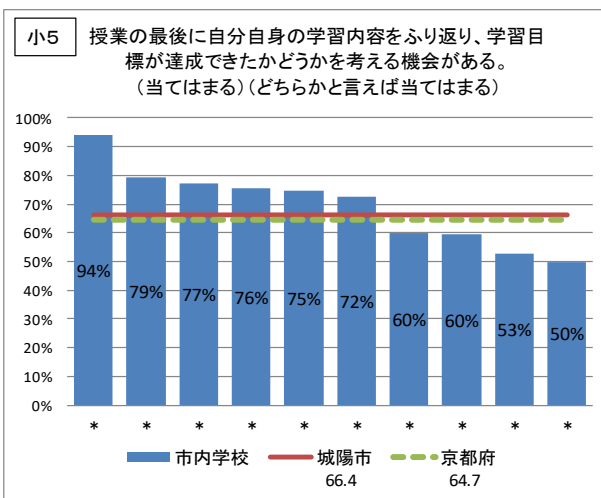
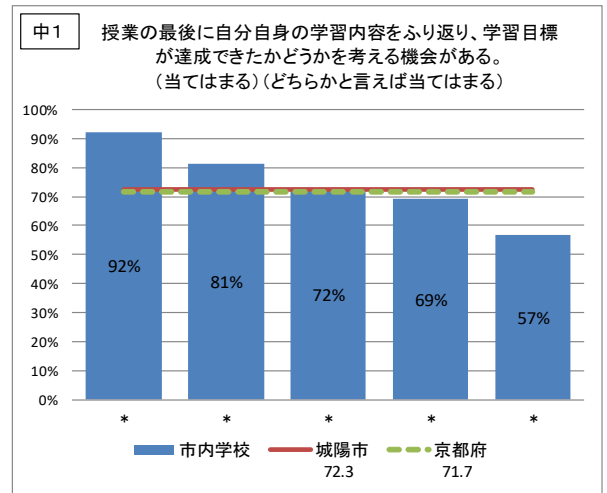
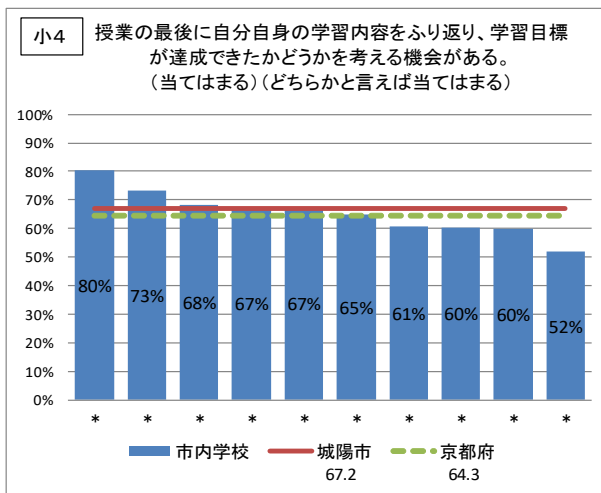
【領域別の結果】



6 質問調査の結果

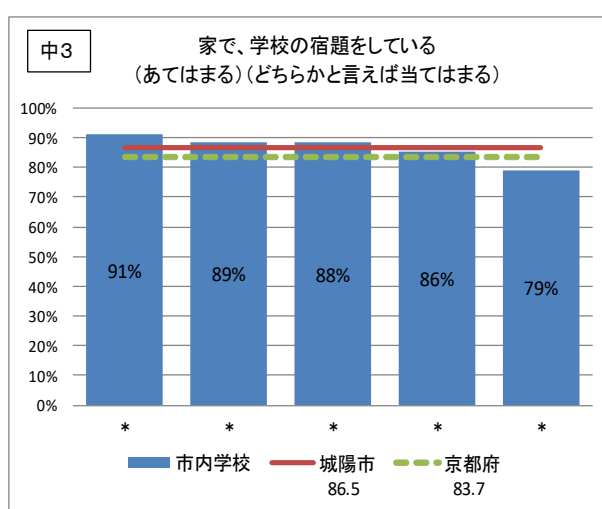
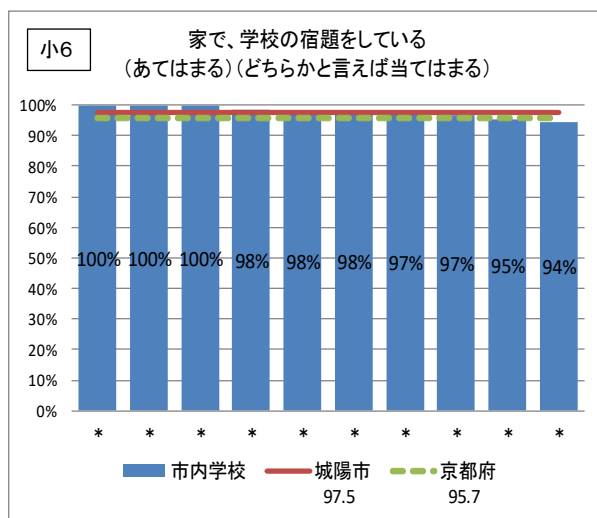
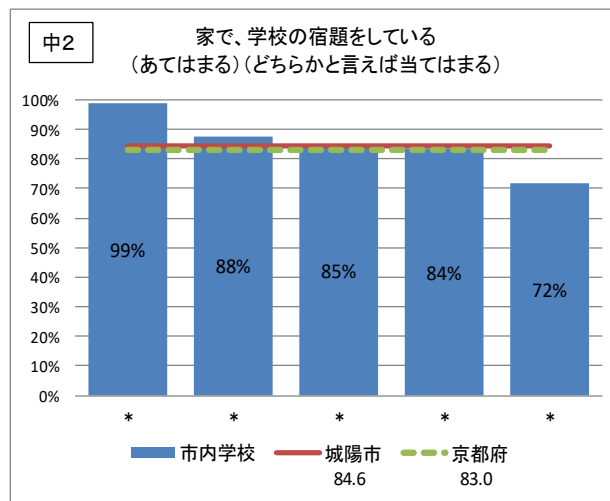
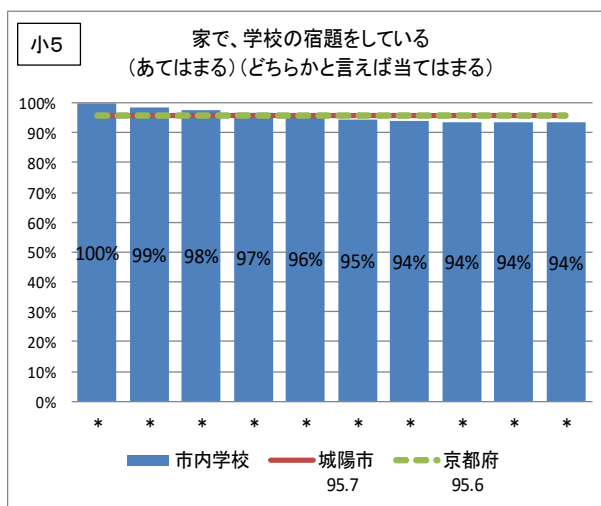
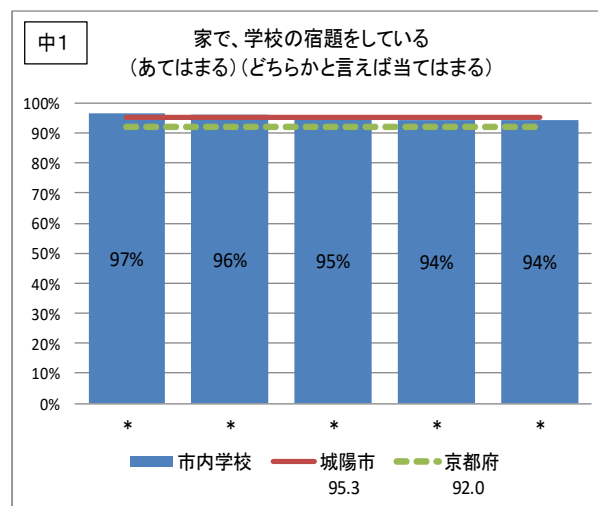
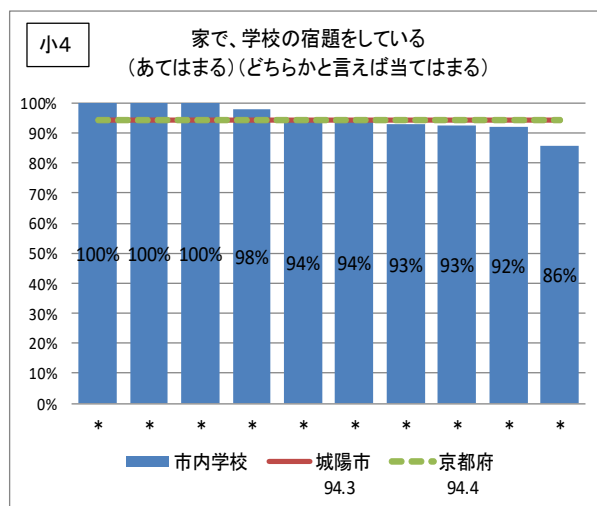
(1) 授業について





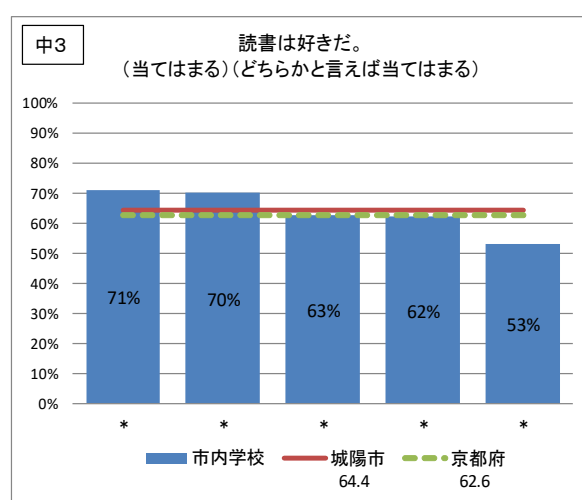
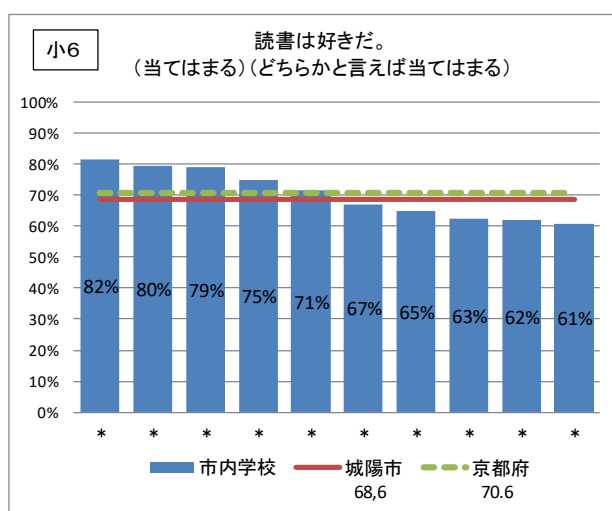
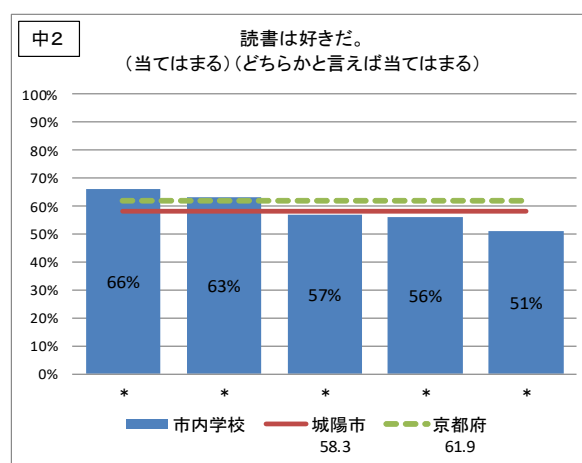
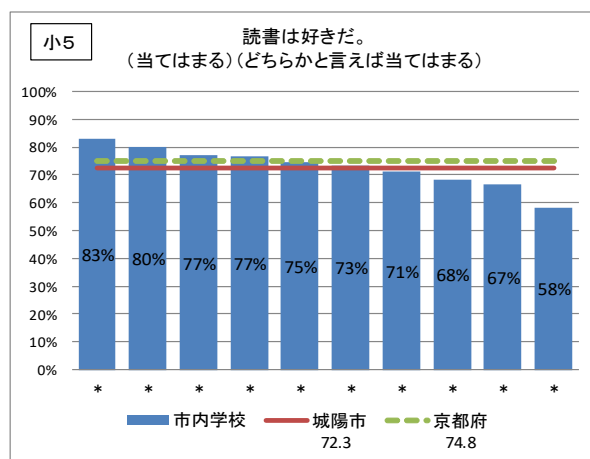
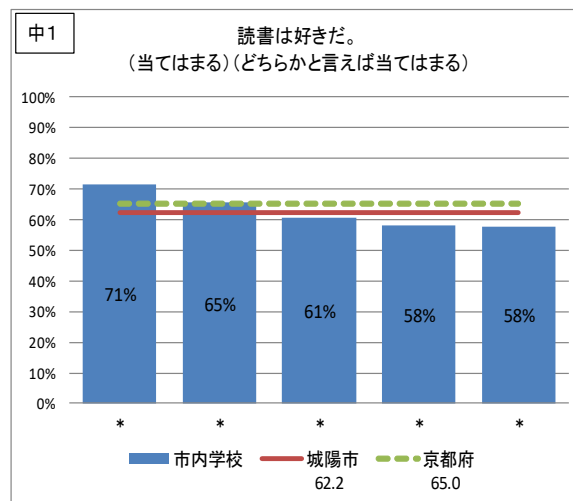
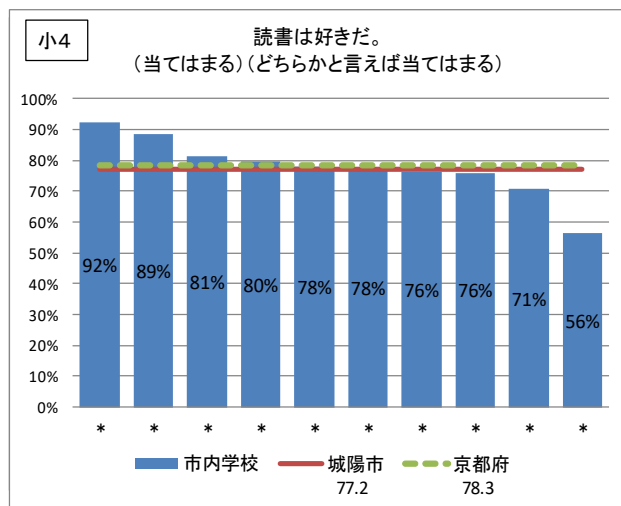
- ・上記の項目については、京都府の平均に対して上回っている学年が多い状況です。学習内容を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを考えている児童生徒は学年が上がるにつれて多くなっています。特に中学2年生と中学3年生で大きく京都府の平均を上回り、「振り返り」を大切にしたい取組を進めてきた授業改善の成果が現れます。
- ・今後も、学習の「めあて」が達成できるよう、「学び合い」や「振り返り」などの活動をさらに充実させていくことが大切です。

(2) 家庭学習について



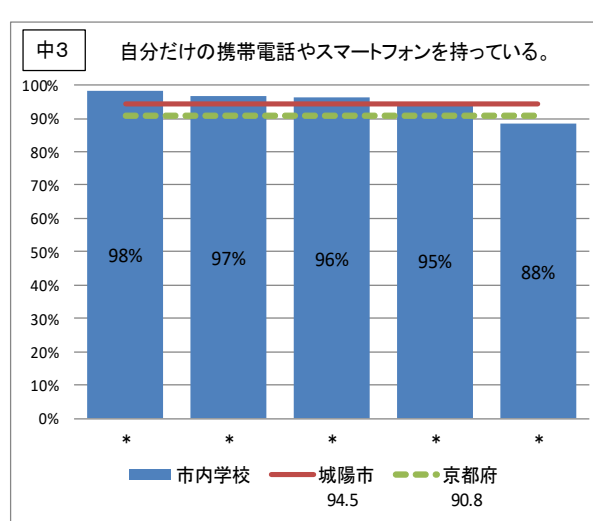
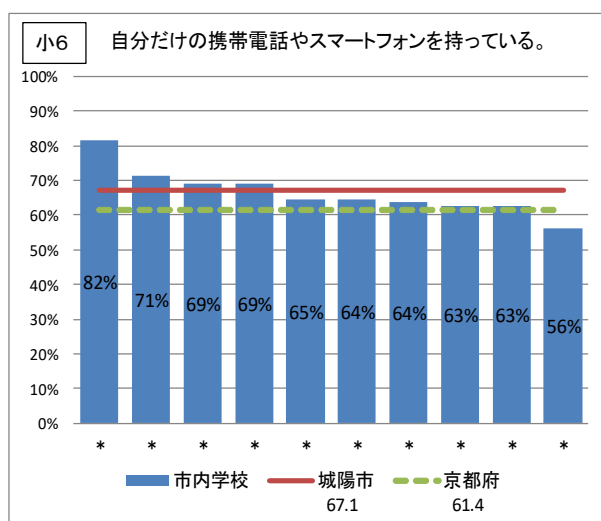
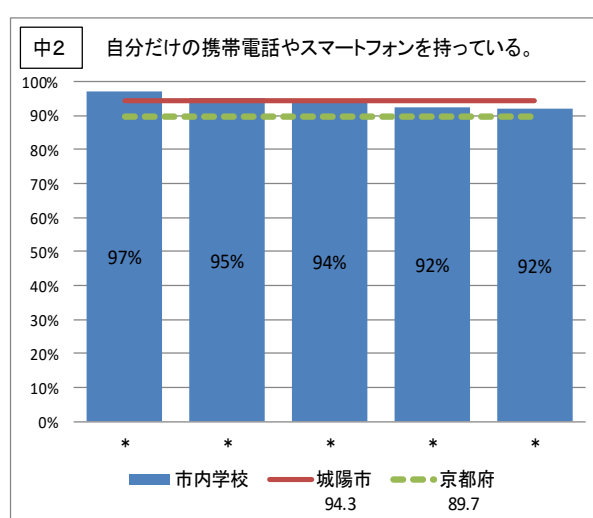
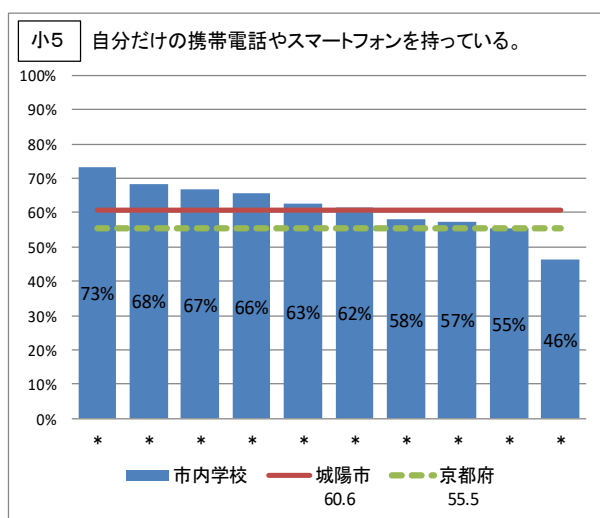
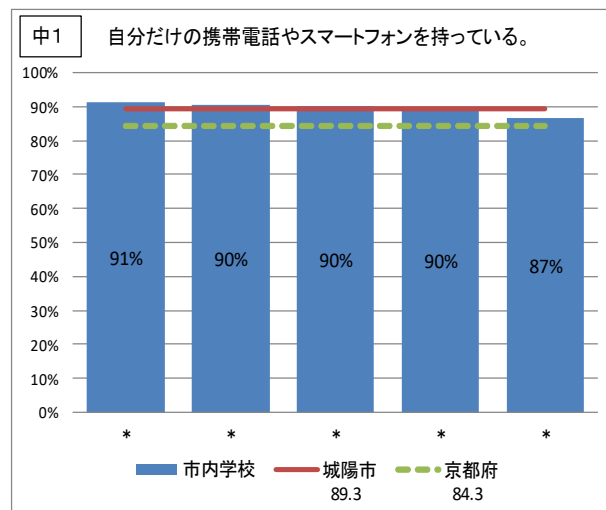
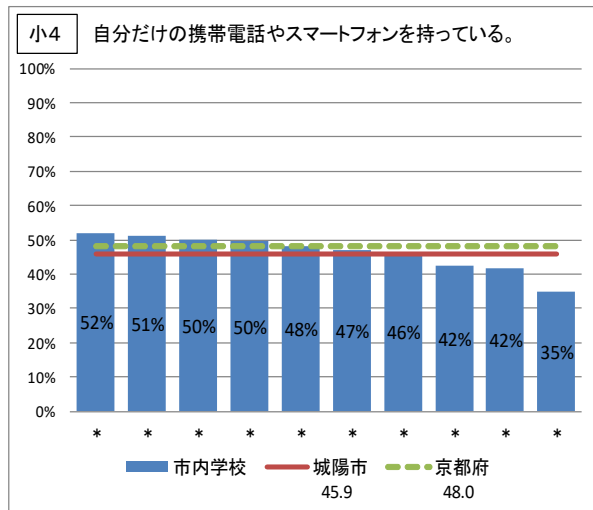
- ・「家で学校の宿題をしている」で「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は、小学4年を除き、京都府平均を上回っています。なお、学習の内容や時間については、検証する必要があります。
- ・各学校で作成している「家庭学習の手引き」を効果的に活用するとともに、授業と家庭学習をリンクさせ、学習意欲を向上させる取組を学校として構築することが大切です。

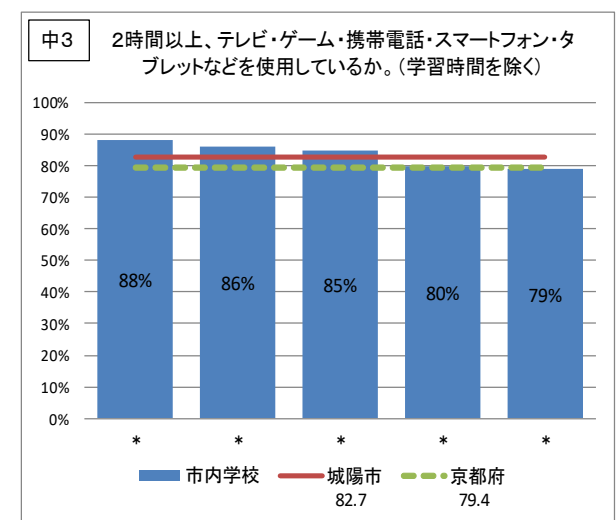
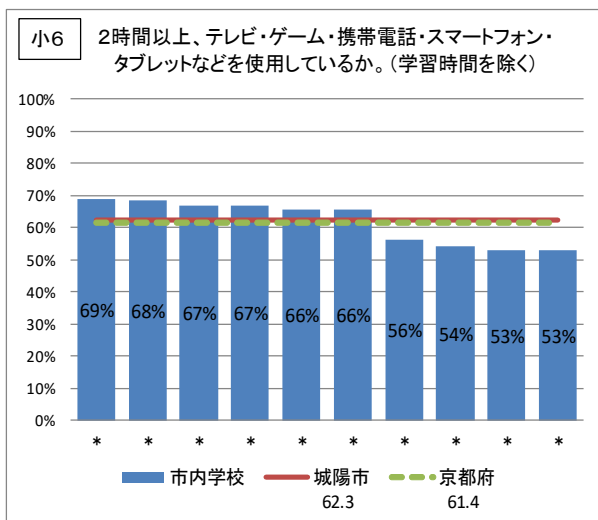
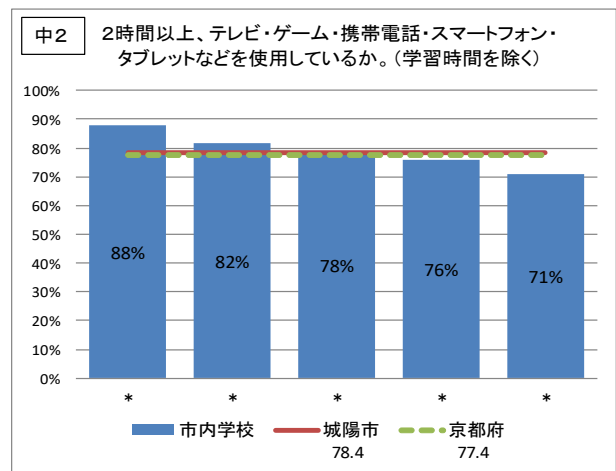
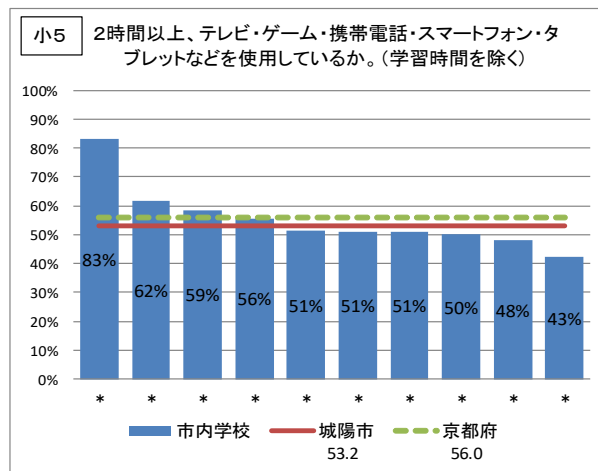
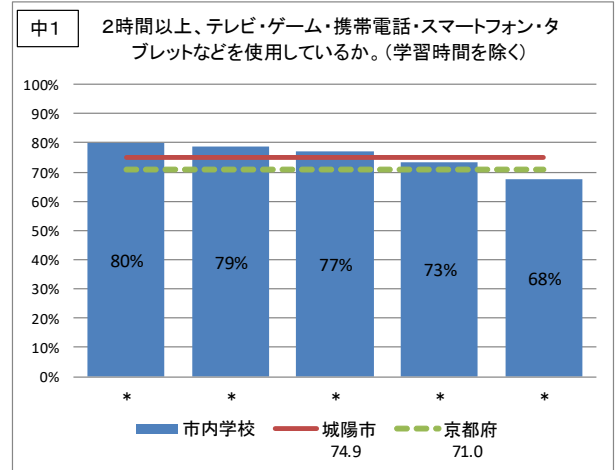
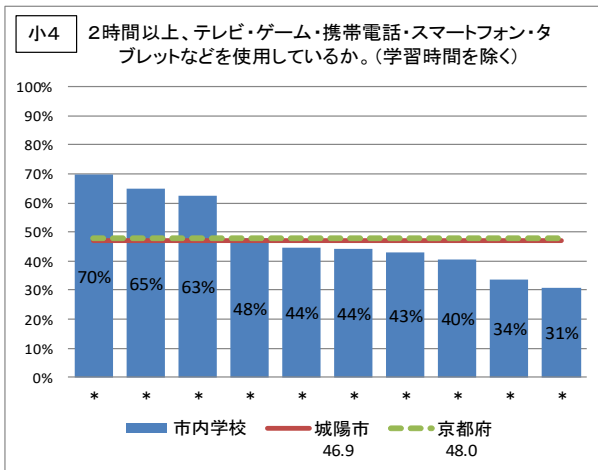
(3) 読書について



- ・「読書は好きだ」の問いに対し、中学3年を除き、京都府平均をやや下回っています。
- ・読書の取組については各学校で工夫して実施されていますが、各教科で学んだ内容を本や図鑑で調べる等の活動を充実すること及び学校の図書室や市立図書館を積極的・計画的に利用していくことが大切です。

(4) 携帯電話・スマートフォン等について





- ・「自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている」は、どの学年も京都府の平均を上回っています。特に中学生になると割合が大きく増え、中学2年と中学3年では90%を超えています。また、「2時間以上、テレビ・ゲーム・携帯電話・スマートフォン・タブレットなどを使用しているか」の項目では、小学6年以上が京都府の平均を超えています。
- ・使用時間やルールを守る大切さについて、また、情報モラルの指導についても各学校で工夫して実施されていますが、今後も、子ども自身はもとより、保護者に届く啓発の工夫が求められます。